

第3回 清瀬市公共施設再編計画市民検討委員会 会議録

日 時：平成30年10月3日（水）午後6時～午後8時

場 所：男女共同参画センター 会議室1・2

出席者：①委員10名

池田厚子委員、井澤敏夫委員、今中真琴委員、内野光裕委員、大津里美委員、久世清美委員、関戸和之委員、高井正委員、星野泉委員、星野孝彦委員（敬称略、五十音順）

②事務局4名

企画部長、企画課長、企画調整担当職員2名

③コンサルタント（有限責任監査法人トーマツ）3名

※以下、「コンサル」と表示。

欠席者：無し

傍聴者：4名

《次第》

1. 開会

2. 報告事項

（1）清瀬市の公共施設再編の考え方

（2）子育て・教育関連の公共施設についての追加情報

3. 協議事項

（1）子育て・教育しやすいまちの公共施設とは

4. その他

《配布資料》

1. 資料1 公共施設再編に関する考え方（おさらい）

2. 資料2－1 子育て・教育関連の公共施設についての追加情報

3. 資料2－2 子育て・教育関連の公共施設の分布

4. 資料3 子育て・教育関連の公共施設配置に関する委員意見シート

《審議経過》

1. 開会 事務局が進行。

● 配布資料の確認

● 前回会議録の確認。8頁「久世委員」の「久世」を削除。

● 内野委員を委員会設置要領第3条第5項に規定の職務代理として、委員長より選定。

2. 報告事項 委員長が進行。

(1) 清瀬市の公共施設再編の考え方

- 資料1のとおり。質疑応答特になし。

(2) 子育て・教育関連の公共施設についての追加情報

- 資料2-1及び資料2-2のとおり。以下質疑応答。

《委員長》

つどいの広場のイメージが湧かない。児童館との違いは。

《事務局》

施設の一室が常時つどいの広場として開かれている。未就学の子ども、保護者等が自由に集い、交流し、仲間づくりをする場。アドバイザーに相談もできる。同じような機能として保育園、児童館、市民センター等で行われている。

《委員》

つどいの広場専用の部屋があるのか。毎日開催しているのか。

《事務局》

資料2-1の8頁の開催場所で毎日つどいの広場が開かれている。学童クラブやまなべーの様な登録はなく、ふらっと行くことができる。

《委員長》

遊ぶものはあるのか。

《事務局》

中央児童館の中にもつどいの広場という一室が常設されており、カーペットで親と子が集い、交流している。積み木、机、本等の遊ぶ道具もある。

《委員》

下宿地域市民センターのつどいの広場はよく利用されている。若いお父さんもよくきている。よい時代になったと感じる。

《委員》

児童館とつどいの広場が似ているという意見もあるが、主に児童館は子どもが自主的に来て友人と遊ぶ場である。つどいの広場は親のサポートの場であり、要求されるものが異なる。清瀬に転入した時この様なサービスがあつてよかったと感じた。床面積削減の議論としては、他の保育園や児童館といった独立した建物ではないので、どこかの一室にその機能があればよいと思う。今後も残して頂きたい。

3. 協議事項

(1) 子育て・教育しやすいまちの公共施設とは

- 資料3についてコンサルから説明の後、「未就学期」「小学校期」「中学校期」毎に協議。以下、意見及び協議内容。

【未就学期】

《委員》

資料には公立保育園しか載っていないが、親目線では私立でもきちんと認可され、設備や職員、費用等が同等であれば区別していない。私立は何園あるのか。

《事務局》

認可保育園、認定こども園、地域型保育園といったものをあわせて私立は18園ある。これらの利用の際は、公立保育園とともに、市の子育て支援課窓口で認定等の手続きを要する。

《委員》

公立か私立かで区別していない。私立保育園は公立にはないようなサービスが提供してもらえる。清瀬市の保育園数は多い方である。待機児童がゼロにならない以上保育園を縮小する方向は望んでいない。

《委員》

ここでは保育園が必要か否かではなく、市の持ち物である公共施設の方向性を議論した方がよい。私立の保育園がよければ市が保育園を運営する必要はないという結論になる。例えば第六保育園が閉園し、どろんこ保育園ができた。むしろキャパが大きくなったり保育サービスの多様性が拡大されたりということがあれば、公的施設を使う必要はないといったことがこの場での議論かと思う。

《委員》

公立か私立かに関わらず、きちんと保育園に入れて保育をして頂ければこだわらない。

《委員》

保育園に入る人数は増えているのか。共働きの若い世代は保育園に入れないなら転居する程の感覚である。逆に保育園を増やすと清瀬で子育てしようという感覚になる。

《事務局》

保育園を利用したい方は増えている。そのため市では保育園の定員数を増やしてきている。ただ待機児童は解消できない状況は続いている。

《委員》

清瀬市は周辺地域に比べ、かなり入りやすい。特に埼玉県は保育園の整備がかなり遅れた。近隣の東京都の自治体と比べてもかなり入りやすい。ただ全国的にも保育園希望者の率は高まっている。共働きの増加による。かつて35%であった保育園就園率が現在45%となっている。東京都はまだまだ5割以上が幼稚園を出ているが、保育園や何らかの保育サービスの需要は高まっている。さらにこれは3～4歳児の話で、0～2歳児は保育園しか入れないため幼稚園の選択肢もない。この層は更にニーズが高まる見込みで、国も都も定員を増やす流れである。都市部は待機児童がなくなることはなく、まさにイタチごっこである。供給が需要を喚起すると言う様に、入りやすくなれば潜在的待機児童といった、今まで申込みを諦めていた方が申込みようになる。

《委員》

増やせば増やすだけ入るということになる。周りに保育園入所が叶わないなら転居する人がいて、そうした観点で住まいを考えている。結果、出て行けとなるのか、行政サービスの選択肢による。

《委員》

清瀬市はむしろ保育所に入りやすいため転入者がいる。例えば世田谷区は待機児童が多くても全体人口が多いため周囲と比べ保育所に入りやすい。一方で、小学校入学時の転出が問題になっている。保育所整備は非常にお金がかかる。その時期だけ過ごし、家賃が安いところや一戸建てが購入できるところに転出されてしまう事態が起こっている。

《委員》

保育園の増減の議論ではなく、どうあるべきか、どうすべきかが重要。小学校入学時に転出することをどう抑制するのか。人が集まることで賑わいを取り戻すといった考えがあるのでは。

《委員》

保育所が不要な人はいない。公立である必要性の有無がこの委員会の論点である。保育園を増やすべきか否かは子ども・子育て会議等で議論したり、次世代育成の計画に描かれたりすることだと思う。

《委員》

この場では決められないということか。

《委員》

清瀬市の建物を使って清瀬市が運営する必要があるのか、駅前乳児保育園の様に場所は清瀬市のもので指定管理者が運営すべきなのか、例えば駅前の公共施設を今後保育所が有効であれば、新たに保育施設にする必

要があるのかといった議論が必要である。一方で、民間事業者や、新たに株式会社が参入してもよいといった考え方もあるが、これはこの場の議論ではないかもしれない。

《委員》

様々な自治体が待機児童ゼロに取り組んでいる。公設公営か公設民営か、民設民営か、どの様な形でも税金は投入される。株式会社だけの保育園がよいというより幅広い見方をした方がよい。保育園をつくっても子どもはどんどん生まれる。消滅可能性都市と言われた豊島区は様々な取組を展開し、四年程の間に東京23区で一番住みやすい都市となった。考え方を換えれば変わっていく。保育園もただつくる議論ではなく、保育園に預けない人への保育支援も考える必要がある。また保育園機能についても考える必要がある。待機児童ゼロに捕らわれず幅広い考えがよい。

《委員》

市は公立保育園を減らす方向だと思うが賛否もある。第六保育園の代わりにどろんこ保育園ができたが、外壁が真っ黒で地域で話題になった。ある若い方が、子どもたちを目立たせることが運営会社のコンセプトとしてあり、真っ黒な外壁のお陰で子どもたちの様子がよく分かると教えてくれた。実際カラフルな洋服を着た元気な子どもたちの様子が遠くからでもよく見えた。民間企業の発想はすごい、馬鹿にできないと思う。

《コンサル》

今までの議論では運営者や量が話題になっていたが、更に場所の問題もある。地域の拠点である小学校にあるという点はいかがか。あるいは駅等、一律に小学校にある必要はないという考えもある。保護者目線でご発言頂きたい。

《委員》

一律に小学校に併設という考えか。

《コンサル》

資料1の14頁の右下の様なイメージである。地域コミュニティ施設という中に保育園も含めることについて提起している。一律にとすると極端な話であることは承知している。

《委員》

小学校単位では数は限られる。今は保育園が点在している。市民は市全体に居住しているので、どの保育園も誰かにとっては近い。小学校区に

限らず市内に点在している方がよい。小学校区に集約する必要性はない。

《委員》

子ども目線では、同じ小学校区の子どもが保育園にいと、小学校入学時に良い。保育園が違くと小学校で一から友達にならないといけない。学校に近い保育園や幼稚園はその様なメリットがある。大人目線と子ども目線の両方がある。引っ越しで長男が知らない小学校に上がった経験があり、大変であった。

《委員》

保育園申込みの際、家の近くを第一希望にしたが離れたところになった。小学校や幼稚園が家から近いところに行けるとベストである。小学校区は重なり合っているので結果市内に点在すると思う。

《委員》

保育園は適材適所の考え方を持っていない。幼稚園や学校等、文科省には適正配置の考え方があり、幼稚園を始める際、私学審議会でも適正か否かを審査される。一方、保育園の場合は、隣に保育園があってもニーズがあるところに設置が可能。また大規模保育園は子ども一人当たりの単価が安くなり運営できないことから小規模保育園が多くできることになる。住宅密集地域にも複数必要になるので、校区が広い小学校とは異なる。日本の幼児教育の基礎をつくった倉橋惣三氏が保育所はポストの敷居必要であると言っていた様に、本来子どもの目線から言うと、電車に乗って職場の近くにあるといったものではない。ただ子育て層全員が保育園を使えるわけではない。二号認定、三号認定という認定が取れる方、就労によって保育が必要な方のみが使えるサービスである。このような福祉施設であればニーズがあるところにつくるのが大前提で小学校区という話ではない。子ども・子育て会議で必要量を議論している中、その議論と切り離した形で議論することはできない。

《委員》

保育園設立に近隣住民から反対が起こる例がある。小学校施設を使えばつくりやすい利点もあるかもしれない。延長保育が間に合わないので仕事場の近くの保育園を利用した経験がある。保育園は駅に近い方が便利。

《委員》

小学校の中に保育所をつくると考えているのか。

《事務局》

併設という考えである。

《委員》

小学校の中につくることは、学童一つとってみても手間がかかる。わざわざ小学校に併設する意味があるのか。

《委員長》

公共施設を建替える時に集約する議論があるかどうかではないか。

《委員》

公立の保育所を移動してつくる必要があるのか。

《事務局》

今回、地域の公共施設を小学校に集約するイメージの議論と考えて頂きたい。他の施設同様、その是非を聞く形式となっている。ただ保育園はこの聞き方があまり相応しくなかった。小学校に集約するイメージの議論だが、全部集めるという話ではない。保育園を小学校に寄せる点については、これまでの議論の様に、近隣住民の反対が生じにくい、小学校で友人関係が続くといったメリットしかないのかもしれない。保育園については誤解を与えてしまったが、小学校が地域の公共施設の拠点になるイメージとして今回提起させて頂いた。ご理解頂き、議論頂きたい。

《委員》

公立保育園は存続ありきなのか。資料が公立のみである点はその様な意図なのか。その場合、市内にある公立及び私立の数や定員割合を出すべきである。ただ、子ども・子育て会議と何が違うのかということになる。全く別の会議体で議論することは市のガバナンスとしてはおかしい。

《事務局》

今の様な議論は求めている。

《委員》

今回は不用意な投げ方である。

《委員長》

今後建替えの際、選択肢の一つに入れるか否かかと思う。保育園建設の反対意見に対しては、メリットがあるという発言もあった。

《委員》

これまで清瀬市において保育園建設で反対意見はあったのか。

《委員》

清瀬市で起こったことではなく、あくまで事例として紹介した。その様な場合にはメリットになるかもしれないという意図である。

《委員》

待機児童は少ない方だが今まさに入れたい方がいる。子ども・子育て支援計画でニーズ調査をし、手を打とうとしている中、ここで議論するこ

とに違和感がある。能天気な学校の近くにつくるかどうかを議論している場合ではない。

《委員》

他の施設は全て市の事業だが、保育園は民間も行っており特殊な議題。その意味では、学校にあっても駅周辺にあってもよい。これからの公立保育園をどう考えるかについて、この場では、長期的に行政の管理コストを減らす視点があるので、小学校に改めて増やしていくという提案は少し疑問を感じる。保育園は、民間の社会福祉法人を活用していくことが選択肢の一つだと思う。地域拠点にあること自体否定はしないが、保育園のあり方との整合性について、この場では議論しにくい。

《委員長》

保育園は数が多い方がよいので学校にもあってよいという話もあるしコストの話もある。長期的に別の議論とともに考えていく必要がある。

【小学校期】

《委員》

最適配置はどの様に捉えればよいか。

《事務局》

資料2-1の2頁に最適配置の注釈を記載してる。最適配置は、学校の数、位置、規模等が現在の状態より更に最適な状態に再編することを意味しており、今回その必要性を皆さんに伺っている。裏を返すと、現在の校数、場所、大きさで最適だと考えるなら、最適配置は不要という回答になるとご理解頂きたい。

《委員》

例えばアミュービルや各地域市民センターは議論しやすいが、小学校や中学校は教育委員会の方でしっかり考えていると思う。今回、教育施設の議論にどの様に関わればよいか。

《コンサル》

資料2-1の24頁及び25頁と、資料2-2の二枚目の小学校の配置図をご覧頂きたい。クラス数等が多い場合と少ない場合の学校運営上のメリットとデメリットが整理された資料である。例えば19頁の芝小や四小はクラス数が12のため一学年2クラスになるが、実際全校の人数250人をクラス数で割ると一クラス20人程度が2クラスになる。小さなコミュニティで授業する状態が発生することについてどう考えるのか、現在の9校の最適化について親御さんの立場でご意見を頂きたい。多角的に見ることは難しいが今の様な点を念頭に議論頂きたい。

《委員》

PTA 等様々な活動を通して、特に低学年の通学が非常に心配である。芝小と四小は青少協の第四地区で、一年生に関して二学期まで親や地域の人が付き添っている。自分自身、子どもが小学校を卒業した後も、ボランティアで付き添った経験がある。四小は11や12クラス数と推計されるが既に単級の学年があり、新しいマンションの建設や多くの農地が宅地化されない限り、クラス数の増加は難しい。ただ四小も芝小も距離が遠いため、それぞれの学校がそのままあった方がよい。その場合空き教室は他の機能で複合的に使い、学校行事は共同でやればよい。一方、三小と七小は向かい合っている。この地区であれば、通学はそれ程変わらないので、六小も含めて南部地域の比較的距離が近い小学校について、将来的に児童数が減れば必然的に統合になると思う。

《委員》

三小と七小はなぜ近接しているのか。七小は新しく建設されたのか。

《委員》

住宅開発があり、子どもが増えたようである。

《委員》

この二校を一緒にすると更に大きくなってしまわないか。

《委員》

南部地域は開発の余地は恐らく残っていない。以前は東京都職員共済病院や三菱商事のグラウンド等があったが、全部開発され一気に人口が増えた。今は一段落している感がある。

《委員》

三小と七小を統合すると15年後に800人程になる。800人の小学校は多い。

《委員》

自分が小学生の時は一クラス50人だった。その際は、プレハブ校舎だったが、あの様な経験は子どもにはさせてたくない。

《委員》

今の配置が適正配置だという人は誰もいないと思う。大規模も小規模もメリットとデメリットがそれぞれある。大規模も小規模もデメリットを減らしてメリットを増やそうとするものである。どの様な状態なら先生たちが頑張っていけるのかが大事であり、今回どの様な立場で議論したらよいか難しい。言えることとすれば、学級が少なくなれば専科教員がいなくなるという状況が考えられるため、ある程度の規模が必要。ただ

小規模は厳しいと思う反面、小規模が大規模になったらそれはそれで大変であり、一概に言えない。人口推計もマンションが開発され、想定以上の人口増加により小中一貫校の校舎をつくったものの建設後3年程度でパンクしてしまった事例も聞く。人口推計は当てにならない面があると考慮することも必要。拙速は良くない。ある程度規模がないと厳しい点は、いじめの時のクラス替えが難しいという面からも言える。保護者の目線の他、地域住民の目線も無視はできない。学校を応援してくれる地域の方も多くいる。以前の職場で統廃合される学校について地域住民との行政裁判を経験したことがある。どこどこに行く権利を保障しているわけではないので裁判は無事終了したわけだが、非常に長引き三年程要した。円卓会議等、地域コミュニティの要になっている方々の意見も聞かないと中途半端な議論になってしまう。統廃合の検討委員会という、どうしても減らす議論になるため、地域の方や保護者の方を含めて議論した方がよい。どこまで議論したらよいか分からないが、ある程度適正な規模がないと学校経営は成り立たない。

《委員》

孫が卒業した小学校は一年生から六年生まで一クラスしかなかった。一クラスの児童数も18人であった。規模がないと成り立たないと思っていたし、中学校に行った時、馴染めないのではと心配していた。実際は先生の目が行き届き、とても仲の良いクラスで、22歳になる孫は今でも先生や友人と交流がある。親御さん同士もとても仲が良い。規模ではなく地域による。まとめ役の保護者の方が、卒業するまで関わってくれた。行事も団結力が強く、生徒が少ない分出番も多いが、子どもたちは喜々として参加していた。規模の大小はどちらが良いか一概に言えない。地域性や親同士の繋がりが大いに関係する。中学、高校で友達が出来ないのではと心配したが問題はなかった。規模が小さく、なぜ統廃合しないのか疑問に思う位だが、中身は充実しており今も感謝している。孫から学校の不平不満を一度も聞いたことがない。

《コンサル》

何を議論したらよいか質問があつたが、学校の問題は公共施設の検討で避けて通れないところであり、実際皆様にどの様に提示してよいか手探りであることも事実である。今回、皆様がどこに着目してこの問題を考えられるのか分からないため、そこを知りたいというのが主旨である。今までの議論でも通学の安全性や、学校の規模、教育の中身の部分等で捉えている方がいることが分かった。皆様がどの様な視点でこの問題を考えるのか、または今のままなのか、最適配置の必要性について何を基

準に考えるのかを教えてください。

《委員》

小学校一学年の適正なクラス数はどの程度か。2クラスは小規模か。

《コンサル》

全校の適正規模が12から18学級なので一学年2クラスから3クラスが丁度よい規模である。逆に1クラスだと少ない。また一クラスの人数は、清瀬市の場合、1、2年生は一クラス最大35人、3年生から6年生までが最大40人としている。

《委員》

一クラス40人が一学年2、3クラスあることが適正なのか。

《コンサル》

上限という考え方である。

《委員》

40人でなくてもよい。例えば30人が3クラスでもよい。

《委員》

一学年80人より多ければ3クラスになるということか。

《コンサル》

そのとおりである。81人になった時点で3クラスになる。

《委員》

誰かが引っ越してこないかと話題になったりする。

《委員》

選択制をとっている地域でも、あと一人来てくれればということがある。

《委員》

大規模とは何クラスのことか。

《コンサル》

18クラスより多い場合であり、一学年4クラス以上をさす。

《委員》

4クラスで大規模となってしまうのか。

《コンサル》

標準からは少し多い位置付けとなる。

《委員長》

規模の問題と距離の問題があるが、今までの議論をみると規模の問題は比較的気を使う必要はないようだ。北欧では一学級20人を超えると担任は大勢見られないとして、副担任が必要になる。日本では当然税金が

違うため同様に考えられないが、感覚的には1クラスが大幅に減ると少し検討が必要になり、2クラスは問題なく、一クラスの児童数も30人以上であれば十分だと言える。財政問題から公共施設の再編を検討する際の最適配置とは、規模より距離が論点となる。そうすると南部地域で議論ができるかどうかではないか。

《委員》

第一義的には児童だが、小学校を地域拠点とするなら、コミュニティの中心や避難所にもなるので、シニアの方がある程度行きやすい場所に点在することも必要。近接している学校の統廃合は考えられるが、四小と芝小といった地域性や距離感がある地域は、分けて検討すべきである。

《コンサル》

今回資料2-2で、各学校から一キロメートルの円を参考に引かせて頂いたが、一キロという距離は感覚的にどうか。

《委員》

ぎりぎりの距離である。重たいランドセルを背負うことを考えると遠い。ただし中学校では更に重たい荷物を更に遠い距離運ぶため、体力をつける練習と思えばよいのかもしれない。ただ小学校一年生には少し厳しい。

《コンサル》

距離の他に例えば幹線道路を跨ぐといったリスクの問題もある。通学には二つの問題があると思う。

《委員》

統合した地域は通学路が伸びるため、安全確保についてはグリーンベルトの設置や人的配備等、様々な施策を講じ、地域や保護者の納得を得る必要がある。これらの先進自治体は多くあるので、参考になると思う。

《委員》

芝小は線路を背にしており、四小は河川と県境を背にしているためエリアが狭く、市域の端にある。両校の真ん中にある四中に統合して清瀬発の小中一貫校をつくり、特色ある教育ができれば面白いと思う。

《委員》

統廃合は二つを一つにするだけでなく、三つを一つという考えもある。

《委員》

学童編成を考慮する必要がある。芝小と四小以外の、例えば野塩地区の児童が四中に来ているので、その問題をクリアする必要がある。

《委員》

六小の児童が四中に来るのか。

《委員》

元々二中に通っていた児童が、今四中に来ている。元々十小と清小のエリアも芝小に組み込まれているところがある。それを考えると四中は少し遠い。今まで小金井街道までが学区境であったのが、けやき通りまで伸びてしまっているため、その地域の小学校一年生の児童が四中まで通うことは厳しい。スギ薬局の裏も清小から芝小の区域に変わっている。

《委員》

選択制はとっているのか。

《事務局》

中学校はとっている。

《委員》

部活で選ぶことが多い。

《委員》

小学校のエリアは規模によって時々見直しがされるかと思う。

《委員》

これまでも度々変わっている。今までとは違う地域から通う児童がいるため、シルバー人材センターの方に通学路に立ってもらおう等している。

《委員》

駅の北部地域の距離感はどうか。特に清明小はどうか。

《事務局》

清明小についても距離は遠い。ただし、元々その距離の中でご自宅もある。今近いところにあるものが遠くなってしまうことの方が当然問題となる。清明小等は元々そこにしかない。新座市境に家を建て、そこから通う児童にとっては当然遠い。

《委員》

距離が近い小学校を最初に検討するのか、ある程度距離が遠い小学校を最初に検討するのか順番もある。ある程度の距離間に、ある程度様々なものが既にあるなら良しとし、先に距離がある方を検討することも考えられる。

《委員》

八小と清小も近い。

《委員》

清明小だけ遠く見える。

《委員》

清明小は元々、五小と九小が統合されている。

《委員》

八小の児童は中学に上がる際、清中、三中、五中の三つに分かれるが、それも解消できるとよい。

《委員》

十小と八小のエリアも時々変わる。

《委員》

資料 2 - 2 の一キロ圏内から外れている人はどこに行くのか。

《委員》

五中と十小に通うのではないか。

《委員》

これらの地域は人が増えるという話もある。

《委員》

十小の地域だったところを芝小の地域にしたエリアもある。

《コンサル》

今までの議論では小学校から中学校への上がり方の関係が気になるという意見が多かった。

《委員》

せっかく仲良くなった親御さんと中学校で離れることも残念である。

《委員》

以前、六小から二中に上がっていたところを四中に変えた時、保護者の反発があった。

《委員》

二中に行きたいと思っている親御さんの反発があった。なぜか四中は行きたくないと言っていたようだ。

《委員》

四中の PTA もやっていた経験があるが、実際通ってもらおうと反発も落ち着き、よい学校で良かったという声を聞いた。最初だけもめた様だ。

【中学校期】

《委員》

四中の場合、自宅からの最寄り駅が秋津組と清瀬組に分かれるため部活動等の集合場所に困る。できれば最寄り駅は一つの方がよい。

《コンサル》

その意見は学校の位置に課題があるという話かと思う。

《委員》

位置が端にあるためか。

《委員》

毎日の通学を考えると今既にバランス良く点在している。生徒数が減り本当に必要になれば再編も考えられる。中学生になると鞆も重く大変そうに通学しているため、距離が延びる場合、自転車通学等、徒歩以外の方法も許可頂きたい。その様な措置がとれば統廃合で距離が伸びてもよいと思う。また新座市で中学生の女の子の連れ去り事件が起こったが、中学生は部活動で夕方暗くなってから帰宅することもあるので、防犯カメラの増設等、安全面の確保をして頂きたい。そうした措置がとれば統廃合も可能だが、今は無理にしなくてもよいという印象。

《委員》

配置を見るとバランスがよい。むしろ人数が減ってきた場合は、清小を清中に、四小と芝小を四中に、六小を二中にといった垂直統合の方がよいのでは。

《委員》

小学校と中学校が統合されるとクラス数が増え、部活ができる教員が増えることに期待が持てる。中学校では部活の充実度という課題が出てくるため、部活の人気度に応じて中学校の魅力が欠けることにも繋がる。

《委員》

小さい学校でも業務量は同等なので教員は大変である。各種委員会等の活動もあるかと思う。

《委員》

校務分掌というのがあるため大変だと思う。ある程度適正な規模ということがこうした場面でも存在する。一般的な最適配置が必要だと思うが、今までの議論をみると今後必要になった時に実施すればよい。一キロ圏内の線引きについては、中学生はもっと遠くてもよいのかと思うが現在の配置はバランスよく点在している。小中一貫校は、三鷹市で全ての学校を導入しており、連携した授業ができています。品川区も全て小中一貫校のため、教員たちが独自に考え、継続的に学んでいくといった区のカリキュラムを持っている。やはり、単に公共施設の配置を考えるのではなく、教育の中身をどの様につくっていくのかを検討しないと中途半端な議論になる。今言えるのは、現在の配置がバランスよく点在している

といったことだけである。

《委員》

中身を変えると自然と人が増えたり減ったりすることがある。例えば教育サービスが良い中学校があり、選択制を導入していればその中学校に人が集まる。逆に言うと希望して行くわけだから、少々遠くても問題ないと思う。中学校位になると場所ではなく教育的サービスといった中身で判断することを考えるようになる。当然私立に行く子どももいる。一律に同じサービスを展開し、均等に中学校を配置するより、中身を変える考え方があってもよい。

《委員》

特色ある学校づくりで、どのような特色を目指すのか、地域と連携する教育もあると思うし、音楽に力を入れる等もある。その様な学校づくりが大事である。よい学校であれば少々遠くても行く。電車に乗って通っている子の事例も聞く。

《委員》

余談だが芝小は昔清瀬の学習院と言われていた。

《委員長》

小学校の拠点化は良いが中学校については様々な意見が見られた。むしろ小中一貫校といった議論もされた。保育園に関しては他の要素があり、拠点化とは別の検討をすべきといったことが議論された。

4. その他

- 次回日程及び事前入力シートについて連絡
- 公共施設見学について連絡

以上